

花と緑の和歌山吟行会 選者特選句と入選句

(令和四年四月十日 粉河ふるさとセンター)

桑島啓司

特選

120 桃の花窮屈そうに咲き誇る 敷島八枝子

入選

017 ふるさとは土あるところ犬ふぐり 磯 勢子

021 紀州富士仰ぎて桃の摘花かな 西原 薫

024 軍用機発ちし畑の桃の花 船木栄子

028 紀国の空は水色桃の花 中谷恵美子

035 亀なくや巨石の並ぶ寺の庭 北畑みち代

040 紀州富士の向かうは浄土桃咲けり 小林伊久子

049 久々にふるさとなまり桃の花 中筋のぶ子

052 風猛山扁額高く風光る 平田冬か

061 幼子の駆け出すほどに花吹雪 浦 貴子

066 八十路まで生きて一日を桃の里 春名 勲

110 桃の花村は一気に艶めきて 中浴智美

141 木の国の鳥はおしやべり風光る 小林伊久子

164 うららかや四体在す仁王門 春名勲

170 紀の川の風はもも色春惜しむ 有村真由美

174 露座仏の膝に落花の吹き溜まり 田村 喜子

189 紀の川の流れたをやか桃の花 山口 登

柴田多鶴子

特選

141 木の国の鳥はおしやべり風光る 小林伊久子

入選

017 ふるさとは土あるところ犬ふぐり 磯 勢子

029 あまたなる花ふところに紀州富士 中川晴美

039 遠ざかりゆく法螺の音に花惜しむ 村手圭子

053 柿芽吹く医聖の里の屋敷畑 園部知宏

056 紀ノ川はゆたかな流れ山笑ふ 鈴木玲子

064 隆々と根瘤千年樟若葉 斎藤利明

067 春昼の溶けゆくやうに子の眠る 堀真一路

072 巡礼の札所にひとり残花かな 田村喜子

096 堂裏の半蔀もあげご開帳 山内節子

111 日にほどけ風に吹かれて桃は八重 山近由美子

112 摘草や紀ノ川光る桃源郷 政元京治

116 紀の川の風愉しめば囀れり 大島幸男

133 山笑ふ寺領に餌差長屋跡 瀬崎こまち

144 虚子の忌をかぎりに花の散りにけり 森山久代

171 つばくろを見上げて揺らすイヤリング 長野順子

178 桃色に浮かぶ紀の川遠霞 新谷壮夫

田中春生

特選

076 風猛(かざらぎ)の風の目覚めや桃の花 中嶋美恵子

入選

021 紀州富士仰ぎて桃の摘花かな 西原 薫

032 柿若葉洗ひ立てたるごとくあり 堀 康恵

040 紀州富士の向かうは浄土桃咲けり 小林伊久子

094 もものはなと言ふだけでやさしくなりぬ 上野山明子

104 摘みゆきて影桃色に桃の花 上野みのり

114 桃摘花先づ手始めの白花より 小寺昌平

117 絵本より飛び出すやうな桃の花 敷島鐵嶺

119 寺領指す僧の指先山桜 島本 美紀

120 桃の花窮屈そうに咲き誇る 敷島八枝子

124 しろももの皆下向きに咲き残る 播磨義春

139 龍門の裾野豊かや桃の花 中村真由子

156 しぶきあげ落花の水に跳ねしもの 三村純也

168 摘花済み桃の花枝の細くなり 堀真一路

171 つばくろを見上げて揺らすイヤリング 長野順子

184 桃の花紀の山里を明るうす 山崎隆代

191 不便には不便の良さや桃の花 上条光春

手拝裕任

特選

146 名を問へば「お寺の川や」花筏 倉橋みどり

入選

004 散る様も平和の国の桜かな 中島走吟

005 鳥となるパラグライダー花吹雪 手拝なをみ

017 ふるさとは土あるところ犬ふぐり 磯 勢子

021 紀州富士仰ぎて桃の摘花かな 西原 薫

044 つばくろめ摘花の脚立掠めけり 角野京子

046 こひのぼり空青くなり広くなり 森山久代

057 その中に鬼神もありてご開帳 三村純也

067 春昼の溶けゆくやうに子の眠る 堀真一路

096 堂裏の半蔀もあげご開帳 山内節子

102 閑伽水に沈む賽銭浮く落花 満田 三椒

111 日にほどけ風に吹かれて桃は八重 山近由美子

134 枝に結ふりボン桃色桃の花 堀康恵

135 桃の花餓死人塚の残る里 北畑みち代

141 木の国の鳥はおしやべり風光る 小林伊久子

168 摘花済み桃の花枝の細くなり 堀真一路

188 こころにきて二度目の摘花桃の花 本土彰

三村純也

特選

044 つばくらめ摘花の脚立掠めけり 角野京子
入選

002 恋ひて来し桃源郷の春惜む 森田純一郎

014 一斉にかつ散り散りに桃摘花 小寺昌平

017 ふるさとは土あるところ犬ふぐり 磯 勢子

021 紀州富士仰ぎて桃の摘花かな 西原 薫

024 軍用機発ちし畑の桃の花 船木栄子

032 柿若葉洗ひ立てたるごとくあり 堀 康恵

036 紀ノ川の蛇行きらめく初燕 池田光子

086 一步づつはなびら流れる方へ 田中春生

094 もものはなと言ふだけでやさしくなりぬ上野山明子

096 堂裏の半蔀もあげご開帳 山内節子

115 桃咲いて野川豊かに輝けり 土江 祥元

122 夕桜仏足石へ散りにけり 西原 薫

129 山門も堂も茶店も桜どき 中川晴美

138 紀の川の家並まぶし桃日和 寿栄松富美

183 紀の川を縦横無尽つばくらめ 富田美子

196 すかんぼや少女のまじるフットサル 山内満彦

森田純一郎

特選

021 紀州富士仰ぎて桃の摘花かな 西原 薫

入選

001 山伏の法螺の音に花散りにけり 森田教子

010 トンネルを抜けて眼下は桃の花 政元京治

044 つばくらめ摘花の脚立掠めけり 角野京子

071 鶯の又鶯の粉河寺 橋本栄夫

108 草踏めば草に力や夏近し 堀 瞳子

117 絵本より飛び出すやうな桃の花 敷島鐵嶺

123 残桜や粉河の杜にはせを句碑 酒井多加子

151 桃の花我にもありし幼少期 金川桂子

154 仙境といふべき里や桃の花 平田冬か

160 風に聞く紀州訛や桃の花 浦 貴子

170 紀の川の風はもも色春惜しむ 有村真由美

178 桃色に浮かぶ紀の川遠霞 新谷壮夫

183 紀の川を縦横無尽つばくらめ 富田美子

184 桃の花紀の山里を明るうす 山崎隆代

189 紀の川の流れたをやか桃の花 山口 登

202 枝といふ枝ごとく桃の花 田中春生